



暑さもようやくやく峠を越えて「暑さも彼岸まで」の好時節となりました。近年は、自然天災現象のあらわれか、世界中の温暖化と共に、気象状況が大変不規則で不順になってまいりました。

今年の夏、特に八月は、暑さに加えて、記録的に日照時間が少なく、人間の健康面をはじめ、植物や野菜、生花等の育成面においても、何かと被害に

「おかげさままで」という心

当山住持

平成 29 年 №62
秋ひがん号

あきばさん

発行人 / 発行所
秋葉山 新井 寺
272-0144
千葉県市川市新井
1 丁目 9 の 1
電話 047-357-8319
FAX 047-357-8399
mail: info@shinseiji.jp
http://www.shinseiji.jp
郵便振替 00150-2-282968

見舞われました。日本人は、四季折々にあわせた生活をしておりますから、天候や環境等が不順になりますと、日常生活や人生にも支障をきたします。

現代人は、「おかげさままで」という感謝の気持ちが少なく、現実が良い方向性にあることが「あたりまえ」だと解釈しがちです。したがって、悪い結果や思わぬ現実が生じると、慌てたり、不平不満を覚えたりと、悪循環を招いてしまします。私たちは、ご縁の方々やご先祖様のおかげで大切な生命を授かり、有難く生かされていることを忘れてはなりません。

何かにつけて思うにままならない世の中にあつて、人生は悩みや苦しみの連続です。日々生かされていることに對して、心から「おかげさままで」という感謝の気持ちを持ち続けていきたいものです。そして、お彼岸の好時節、さらにこの上ない平和な彼岸の世界に少しで

も近づくことができよう、お釈迦さまやご先祖様の正しい信仰心のもとに、六波羅蜜(布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧)の教えを現実的に勉強し、行じられてはいかがでしょうか。

合掌

たかしなろうせんぜんじ

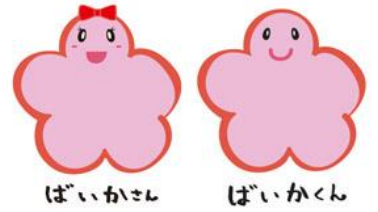
高階瓏仙禅師様五十回忌

重ねてご案内申し上げております通り、本年は、現 新井寺方丈様の法祖父にあたる高階瓏仙禅師様の五十回忌御正當の報恩行の年です。

高階禅師様は、大本山永平寺・大本山總持寺の貫首(かんしゅ・住職のこと)に加え、曹洞宗の管長様もつとめられましたので、両大本山におきましても、五十回忌の報恩法要が厳修されます。この一年間、新井寺をはじめ、福岡県、静岡県などの高階禅師様にご縁の深いお寺で、五十回忌の法要が営まれています。

この九月二十四日には、大本山永平寺において、報恩法要が行なわれ、新井寺の方丈様が逮夜法要(たいやほうよう)の焼香師(しょうこうし・導師)をおつとめいたします。二十数名のお檀信徒の皆様と報恩参拝をさせていただきます。

梅花流
正式マスコットキャラクター



梅花流詠讚歌のおすすめ

集うたのしき 唱えるよろこびを通じ
ほとけ様に出逢う
仲よく活動し 明るい社会をつくり
正しい信仰に生きる

● 「詠讚歌」とは

仏教やほとけ様の教えをわかりやすいことばにして、親しみやすくメロデーにのせてお唱え(うたう)する仏教音楽のひとつです。日本仏教では、平安時代から伝わっています。五・七・五・七・七の和歌スタイルの「御詠歌」と、七五調スタイルの「御和讃」をあわせて「詠讚歌」といいます。

● 「梅花流詠讚歌」について

仏教各宗派には、それぞれの御詠歌があります。曹洞宗の詠讚歌には、両祖様(道元禅師様・瑩山禅師様)が特に好まれた梅の花にちなんで、「梅花流」という名前がつけられています。梅花流は創立にあたり、真言宗

密厳流様にご指導をいただき、その礎を築きました。

梅花流詠讚歌は、一仏両祖様(お釈迦様・両祖様)を讃え、ご先祖様を敬うところ、亡き人を偲ぶ気持ちをお唱えします。現在、八十六の曲があります。お盆やお彼岸などのお寺の行持、お葬式やご法事のときにお唱えする曲、観音様やお地藏様やご本山の曲、お祝いの曲など、曹洞宗のあらゆる行持にかかわる詠讚歌がそろっています。どの曲も、やさしく、おだやかなメロデーと

歌詞で、唱えやすく、こころが安らかなになります。近年では、南こうせつさん(大分県の曹洞宗寺院のお生まれ)が作詞・作曲くださった曲もできました。

梅花流は、昭和二十七年(一九五二年)、「道元禅師七百回大遠忌」の年に誕生

しました。おりしも「サンフランシスコ平和条約」が発効され、敗戦後、連合国防領から日本がようやく独立を迎えた年でもありました。そのような時代にあつて、戦争で亡くなった方々への慰霊供養のために、特に戦争で大切な人を喪くしたご婦人方のこころの支えともなりました。

六十五周年を迎えた今日、梅花流詠讚歌は、一仏両祖様の教えを広く、親しく弘める曹洞宗の布教活動の重要な一翼を担っています。

● 「梅花講」について

お寺ごとの梅花流詠讚歌のチームを「梅花講」といいます。梅花講に集うお仲間を「梅花講員(講員)」といいます。現在、梅花講は、全国に約六千三百講、講員は約十三万五千人。この中には、ハワイやブラジルなどの海外のお仲間も含まれます。

新井寺の先代方丈様は、ご指導することこそなかったものの、お葬式やご法事などで先代方丈様が唱えられる御詠歌に、多くのお檀信徒の皆様がたいへんに感銘をうけていたそうです。

新井寺梅花講は、その「先代方丈様に、御詠歌をお唱えしてご供養したい」と

いうお檀信徒の方々の報恩供養のお気持ちからはじまりました。講が設置されて、今年で二十年になりました。

新井寺梅花講の練習（お稽古）は、月に二回。午後一時半から四時ころまで。椅子・机を使つての練習なので、足が痛くなる心配もありません。声のよし・あし、お歌の得手・不得手も心配ありません。気持ちよく声をだすことは、からだやこころの健康にもつながります。現在は、副住職と大黒さん（お寺の奥さんのこと）が中心となり、男女約十名で、たのしく、まじめに、和気あいあいと活動しています。

練習は、お唱えが中心ですが、みんなで歌詞を味わつて、その意味を考えたり、それぞれの行持や一仏両祖様の教えをわかりやすく学んだりする時間もあります。ときには、詠讚歌の曲がきつかけとなつて、仏教全般のこと、日ごろのご先祖様のご供養で疑問に感じていることなどを話し合うことでもあります。

練習の合間や練習後には、みんなでお茶をいただきながら、おしゃべりに花が咲きます。また、おせがきやお彼岸法要の前には、お寺のお掃除をしたり、札所めぐりなどの参拝旅行をたのしんだりもしています。

学んだ詠讚歌は、おせがきやお彼岸の法要でお唱えさせていただきます。隔年の宗務所（県）の奉詠大会や全国大会にも参加します。全国大会は、毎年、二日間にわたつて開催され、全国各地から約一万人の梅花講員がつどいます。県を超えて、数百人でのお唱えは圧巻です。来年は、梅花流発祥の地 静岡県で開催されることになっています。

● これからはじめるみなさんへ

御詠歌をはじめられるきつかけ・理由は、さまざまです。ご家族を喪くされたこと、母が御詠歌をしていたから、法要で聞いた御詠歌に魅力を感じて、お歌が好きだから、お仲間にも誘われて……。きつかけはどんなことでもよいのです。梅花講に参加して、はじめは、みなさんのお唱えを聞くだけでもよいのです。御詠歌を軸としたさまざまな活動が、きつとお一人ひとりの大いなる安心（あんじん）につながることを願っています。

● これからの「詠讚歌」

戦後、たいへんな人気を博した梅花流詠讚歌ですが、その隆盛期に活躍された講員さん方の高齢化、ライフスタイルや仏教や信仰に対する人びとの考え方の変化などによって、近年は、衰微の

傾向にあるのが現状です。都市部では、「御詠歌」そのものを知らないという人も少なくありません。

梅花流では、これまでの梅花流をたいていにしつつ、時代に即応した梅花流のスタイルを模索しています。今秋、左記の詠讚歌の催しが行なわれます。詠讚歌を知っている人も、知らない人も、詠讚歌の魅力を知っていただくよき機会となることでしょう。どうぞ、お出かけくださいませ。

◎ 禅をきく会 入場無料

禅のお話といす坐禅に加え 梅花流詠讚歌を主軸に 会場を魅了します

日時 十月三日（火）

開場 十二時 開会 午後一時

会場 芝公園「メルパルクホール」

主催 曹洞宗宗務庁

◎ 第十八回仏教音楽祭ブツダスベル

「平和×御詠歌 梅花讚嘆」

梅花流師範八人を招き、伝統的な御詠歌をはじめ「平和讚御詠歌」と称した新しい御詠歌「空華（くうげ）」を初披露します

日時 十一月八日（水）

開場 午後六時 開演 六時三十分

会場 赤坂「紀尾井ホール」

料金 S席三千元 A席二千元（全席指定）

主催（公財）仏教伝道協会

詳細は 別紙をご参照ください

おはなのおはなし
いま流行っている花

最終回

「年末年始を彩る花」



クリスマスにおなじみのポインセチアは、寒さに強いと思われがちですが、実はポインセチアはメキシコ原産なので、高温を好みます。日照時間が少ないほど発色が良くなるので、ヨーロッパをはじめ、日本でも冬のクリスマスを彩る植物になったようです。陽当たりが良く、十度以下にならない室内が適切な環境です。葉脈がくつきりしていて、葉がうすく、茎元がしつかりしているものが良いポインセチアです。葉脈の状態が良いものは、良い環境で、良い水と土で育てられているものなので、発色が良いからです。

高温乾燥を好むポインセチアに対し、暑いのも寒いのも苦手です。わりと水を好むのが、シクラメンです。シクラメンは十八度を超えると、へたれてきてしまします。十度から十五度が適温

とされています。置く場所は、ガーデンシクラメンは屋外、普通のシクラメンは暖房のきいていない玄関や廊下などのカーテン越しの室内が良いでしょう。暑さが苦手なシクラメンですが、日光不足になると、花色がうすくなったり、葉っぱが黄色くなったりしてしまいます。風がない日中の数時間は、時々外に出してあげても良いかもしれません。また、花ガラをつんで、肥料をあげると次から次に葉っぱや花がでてくるので、終わった花を茎の根元からもぎとると、より多くの花を楽しむことができます。赤、ピンク、白のシクラメンが一般的ですが、近年、サントリーが開発した「セレナイディア」といわれるムラサキのシクラメンも注目されています。良いシクラメンは、葉っぱが小さく、葉っぱが詰まっているものです。シクラメンは葉っぱの数だけ花が咲くといわれているからです。また、普通の植木鉢と底面吸水の鉢に入っているものがありますが、底面吸水の鉢のほうが、水やりも簡単に水切れの心配も少ないです。

ポインセチアもシクラメンも、ほぼ同じ時期に出回りますが、クリスマスのお正月のシクラメンは十二月初旬から中旬頃のご購入をおすすめします。年末年始のにぎわいをさらに盛り上げてくれることでしょう。(花屋 秋葉山 店主しるす)

編集後記

「方丈さんは、ちっとも変わりませんね」。久しぶりにお寺に来られたお檀信徒の方が、こうおっしゃっているのをよく耳にします。どれくらい久しぶりなのか、何をもって変わらなと言っているのか、疑問に感じながら、果たしてそうなのだろうか、そして「変わらない」ということはよろこぶべきことなのだろうか、考えています。

お釈迦さまの諸行無常の教えは、すべてはうつり変わっていくということ。そのことを思うと、変わらないはずはなく、一緒に暮らしていると、方丈さんも、確実に年齢を重ねていることを感じます。けれども、方丈さんのお経の声のパワーや衣を着て行持をつとめる姿は、わたしが子どものころとたしかにちっとも変わりません。

大切なことは、すべてが自分もちの人生にあつて、変わったとか、変わらないとか、誰かがどう感じるかを心配することではなく、ほとけ様の教えに脚下を照らし、自分自身が「これでよい」と思えるような生き方をしているかどうかなのかもしれません。自分を甘やかすことなく、ふつうのなかに充実感と重みのある半歩一歩でありたいと、願っています。

時候不順のみぎり、くれぐれもご自愛くださいませ。
編集小子合掌

